ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

TARO 2020 Round.1 SPORTSLAND SUGO

SANMEI Team TARO PLUSONE

TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

2020 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦
SUPERBIKE RACE in SUGO

宮城県・スポーツランドSUGO（1周=3.7375km）
クラス：JSB1000 マシン：BMW S1000RR タイヤ：BRIDGESTONE

2020年8月9日（日）天候：雨　コース：ウエット
レース1 予選：14番手（タイム：1分42秒676）　決勝：8位

2020年8月10日（祝・月）天候：晴れ　コース：ドライ
レース2 予選：13番手（タイム：1分43秒024）　決勝：10位

観客動員数：8,300人（2日間合計）

FUJITA　Rider's Garage　ファミリーロッジ 旅籠屋 はたごや

バイク館SOX　2りんかん　Burgundy　府中不動産　SPEED MASTER　ARAI　A-big Motorrad　Arai HELMET　功和軍団　Kawasaki CS2

WATER-TEC INC.　SOG　INOMATA　HYOD　alpinestars　BRIDGESTONE　RK TAKASAGO CHAIN　NGK SPARK PLUGS

FIXFIT　ADVANTAGE　WIND JAMMERS　ACTIVE　Printec　PLUS μ　S&E PRECISION　SHORAI　MDF　999.9

RACING MAX 府中店　R.C.S.　BEEPRESSO　九電工　Team PLUS ONE　TK LABO　Body Crystal　MotoUnited

JSB1000
44 TARO SEKIGUCHI

JSB1000 ではじめの一歩を踏み出した Team TARO

全日本ロードレース選手権第 1 戦が宮城県・スポーツランド SUGO で 8 月 9 日（日）・10 日（月・祝）に行われ、ようやく新しいシーズンが始まった。2020 年は、2 年振りに自身のチームを再稼働させ、多くの方のサポートもあり SANMEI Team TARO PLUSONE として国内最高峰である JSB1000 クラスにフルエントリー。マシンも BMW S1000RR となり、関口にとっても、メカニックにとっても初めて走らすことになる。

3 月下旬に鈴鹿で、緊急事態宣言が解除されてからツインリンクもてぎ、SUGO とテストを行うが、あくまで動態確認レベル。本格的にレーシングスピードで走らせたのは、7 月下旬の事前テストからだった。足回りのセットを振りながら周回を重ね、バイクを理解しながら、自分自身の調子を上げていった。関口は、2 日目、3 日目のテスト参加となり、天候はまずまずで、ほぼドライコンディションで走ることができていた。3 日目は、メーカー系チームがいないこともあったが、ここでもセッションいっぱい走り込みを行い、その中でトップタイムをマークしていた。

8 月に入り梅雨空けが宣言されたが、東北地方は下り坂。初日、2 日目と雨模様となり、ウエットコンディションでのセットアップを進めて行く。公式予選でも BMW S1000RR というバイクが、何を求めているのか？　どんな走り方がいいのか？　を考えながらセットを続けていた。

予選終了後、一時雨は止むが、レース前に再び雨が降り始め路面はウエットのまま。雨量は少なかったが、逆に難しいコンディションとなっていた。そしてレース 1 のスタートを迎える。クラッチミート自体は、悪くなかったものの、スタート時に使う電子制御の不具合で、ほぼ最後尾までポジションを落としてしまう。そこからは、1 台、また 1 台とポジションを上げて行く。今回は、前週に 4 輪のドリフトがあり、1 コーナーから 4 コーナーまでの路面が特にスリッピーだった。実際に転倒も多かったこともあり慎重に周回を重ねる。耐えに耐えた 25 周を走り切り 8 位でゴール。JSB1000 初戦をシングルフィニッシュで終える。

レース 2 が行われた祝日、山の日は、天候は回復。一気に真夏の暑さに見舞われた。朝のウォームアップ走行では、新たなセットを試すが、今ひとつの状態だったこともあり、事前テストの状態に戻してレース 2 に臨むことにした。

レース 2 のスタートは、クラッチに問題が出てしまい、やや出遅れる。こちらも次戦以降、対策をしなくてはいけない部分だ。徐々にペースを上げ、岩田選手の背後につけると 6 周目の 2 コーナーから 3 コーナーの切り返しで前に出る。そのまま引き離したいところだったが、岩田選手もピタリとついてくる。このバトルは最終ラップまで続き、残り 2 周となったところで何度も順位を入れかえていた。結局、最後のストレートで僅かに前に出られてしまい 10 位でフィニッシュ。悔しい幕切れとなったが、まずは 2 レースを無事に戦い切ったのだった。

■関口太郎コメント

「2020 年シーズン、再びレースができる環境を整えてくださったサーキット、関係者の皆さんに感謝いたします。そして Team TARO を応援してくださるスポンサーを始め、全ての皆さんに御礼申し上げます。自身のチームで JSB1000 クラスを戦うことを決意しましたが、600cc を走らすことと、これほど違うことなんだと実感した開幕戦になりました。その中でチームスタッフは、落ち着いて行動してくれましたし、着実なステップを踏めたと思います。次戦も今のパッケージを最大限引き出せるように、欲をかかずに進んで行こうと思っています」

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com